

∽ 第1章 ∽

し尿の変遷と清掃法・廃掃法



し尿の農地還元
出典：『東京都清掃事業百年史』

し尿は有価物から廃棄物へ

古来、農耕文化に育まれてきたわが国では、し尿は堆肥と共に耕作物への肥料として有効利用され、大切に取り扱われてきました。

土地から採れた作物を人間が食べ、人間からの排泄物をまた肥料として土地に戻し、作物育成の糧にする。まさに理想的な循環方式、今日提唱されているリサイクルがわが国では早くから営まれ、し尿は私たちの生存に大きな役割を果してきたのです。

人口の増加と集中、そして食糧の需要度が高まるにつれ、し尿の肥料として果たす役割もまた大きくなりました。明治政府の廢藩置県により人の移動、往来が自由になり、人々は都市に集まるようになりましたが、人が集まる地域ではし尿の自家処理が次第に困難になって行きました。

農家はというと、農作物の需要増からさらなる増産を求められ、多くの肥料を必要していました。このため農家が自家処理のできない町の家々を回りし尿を汲み取るようになりましたが、そのうちタダで貰うのは悪いからと、その代価として農家で採れた米や大根、人参などの物品等を届けるようになり、し尿は次第に有価物へと変わって行つたのです。し尿が多く排出されるところでは競争入札さえあったと言われてあり、当時し尿が、肥料とし